

ケリ（チドリ科） 全長 36 センチ

毎年8月に入ると、ケリの群れが集結する田んぼがあります。

大仙市神宮寺で、農地整備され大規模圃場が広がる一角です。ケリはこの地で繁殖した実態は見当たらないことから、他の繁殖地から移動してきたものでしょう。

ヒナは胸の黒い横縞模様が鮮明でなく、親との違いが分かります。この時期、ヒナは親と同じくらい大きく育ち、餌の取り方などを学んでいるようです。20羽ほどが集結し、畦道や農道の開けた場所で餌を探しています。ミミズなどが好物のようです。



畦道の花に囲まれて

カラスやトビ等天敵が近づくと一斉に飛び立ち、「キリキリッキリ」と甲高い声で威嚇と攻撃を繰り返し、たちまちにして追い払いました。

しばらくこの周辺の田んぼで体力を蓄え、秋の長旅に備えているのでしょう。



飛んでいる時は白い羽根が目立つので、カモメと間違える人もいます。



産れてまもない雛2羽が、お腹の下から出てきた。

20年ほど前、神岡周辺の田んぼはケリの貴重な集団繁殖地でした。

その後一斉に始まった大型圃場整備と、バイパス工事が断続的に続いたことから、繁殖地の環境が大きく変化し、一時期ほとんど姿が見当たらないこともありました。

しかし工事も終わり、田んぼに静かな環境が戻ってきたことから、徐々に昔の姿に回復しつつあります。何時までも続いてほしい風物詩です。



お散歩中。もう自分で餌を探しています。



農道に集結し、くつろいでいるようだ。